

# 熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

## ～アマモサミットinくまもと・やつしろ その後～

熊本県は、雄大な阿蘇山麓からの地下水に恵まれ、また沿岸域は有明海・八代海に面した美しい自然環境に囲まれた地域です。その熊本県沿岸域の有明海・八代海では、全国的にも閉鎖性がとても高く、閉鎖度指数は八代海32.5、有明海12.9、東京湾1.8、伊勢湾1.5、陸奥湾2.9という結果からもわかるように、周辺の経済社会や自然環境の変化に伴い、陸域からの流入負荷等を浄化しづらく、海域環境の悪化が著しい状況となっており、貴重な自然環境及び水産資源の宝庫が失われようとしています。またこの両海域は、台風の常襲地帯でもあり高潮・高波などの海象災害や洪水・土砂災害などに悩まされ自然災害に対する防災・安全対策も欠かすことができない沿岸域でもあり、環境と防災との調和した沿岸地域社会の創成に関する対応策について、その緊急の構築が切望されている状況であります。そこで私たち産・官・学・民が当初から協働・連携してフォーラムの「立ち上げ」「活動・展開」という、前例のない画期的・先駆的な取り組みを紹介します。

### 設立までの背景

#### ●「再生推進会議」の設置が無い 有明海と八代海

- 「東京湾、大阪湾、伊勢湾、広島湾」には行政主導による「再生推進会議」が設置され、再生策が積極的に実施されています。
- 環境省の「総合評価委員会」および「再生策検討の小委員会」で作業中の、有明海・八代海「再生のシナリオ」を実施する「受け皿」が必要です。
- 海域環境の再生・維持は、多省庁、地域行政、住民等が一体となって推進する必要があります。

#### ●第8回アマモサミットinくまもと・やつしろの開催が大きな第一歩

- 八代海・有明海に関する全ての人たちが関係するテーマである“海の自然環境の保全と再生”、“環境と防災の調和”、“沿岸地域活性化”を含む「八代海・有明海を豊かな海に再生するため」をゴールとして、行政、大学・研究機関、水産関係、企業、NPO、市民が集い白熱の議論を展開しました。
- その成果を「熊本宣言文」としてまとめることができ、再生に向けての大きな一歩が踏み出されるとともに、関係者の気運は確実に高まりました。



パネルディスカッション



ポスターセッション

#### ●日本沿岸域学会全国大会 (熊本) 2017の開催

- 2016年4月14日及び16日に発生した熊本地震並びにその後発生した記録的な豪雨により、熊本県はじめ、有明海・八代海等は大きな被害をこうむり、その影響は県民の生活、河川、港湾、海岸におよび、流木・土砂堆積の被害も生じています。地震の影響は「水の国」である熊本の地下水循環へも出ていることが懸念され、モニタリングにより下水漏出が示唆されました。現在、被災された方々の痛みを最小化し、創造的な復興を目指し、熊本のさらなる発展につなげることを3原則とした「熊本地震からの復旧・復興プラン」が実施されています。
- 日本沿岸域学会では、こうした背景に鑑み、「日本沿岸域学会全国大会(熊本)2017」において、シンポジウム「熊本地震と有明・八代の海」を開催し、有明海・八代海の将来に向けてどう取り組むかについて討議が交され、「熊本の海の再生に向けた行動を」と題した提言文をまとめました。



パネルディスカッション



被災した熊本城を視察

**\*1 第8回アマモサミットinくまもと・やつしろ「宣言文」抜粋**  
(総論)  
八代海・有明海を豊かな海に再生するために、やるべきことをやりたい人が実行できるよう、様々な立場の関係者が情報を共有し、意見を交換する場の設置に向けて取り組むことと山から海までを対象とし、豊かな八代海、有明海の再生に向けて、漁業者、市民、企業、教育、行政等、関係者間の連携体制の強化を図ること  
(方針)  
森川里海をつなぎ、大きな目標を掲げ、モニタリングや評価検証しながら効果的な実施(原地的な実施)を行うため、目指すべき姿の検討に取組むとともに、環境保全と防災の両立など新たな考え方についての十分な啓発・情報共有を行うこと  
(展開)  
それぞれの立場に応じて、当事者として各関係者とともに、八代海・有明海のおもひを受取る誰もが主体的に八代海、有明海の再生に取り組む活動を展開すること  
(シンポジウム参加者一同)

**\*2 日本沿岸域学会全国大会(熊本)2017「提言」：熊本の海の再生に向けた行動を」抜粋**  
●研究者だけでなく、行政、市民、企業、漁業者、教育、レジャーなど幅広い関係者が、それぞれの論理を尊重しつつ実行可能な共通の方向性に向けた取組みへの展開を提案し、共に取り組むべきであり、  
●取り組むべき分野として、県民参加型を軸とした取組・展開、地下水の循環を重視した環境モニタリング、災害への対応体制の整備、自然再生の効果の定量化、住民等多様な主体の参画による推進体制の確立等があり、  
●研究活動や行政事業、NPO活動を通して、状況の把握、具体的対策を明記した行動計画の策定、実践的な事業の推進および、こうした活動への自主的な参画等を学会員自らのコミットメントとして実施していくとともに、その活動を推進するために、首長らの積極的なリーダーシップの発揮を期待し、行政の関与や事務局組織の充実などに広く支援や協力を求める  
(シンポジウム参加者一同)  
詳しくは、熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムのHPをご確認ください。

### 設立からの展開

#### ●熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム の設立(平成29年12月1日)

- アマモサミットの後、多様な関係者から構成される「準備会」を立ち上げ「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム」の設立の準備を進めてきました。しかし2016年4月の「熊本地震」さらには2017年7月の「九州北部豪雨」による被害を被り、設立準備がしばらく滞ることとなりました。
- 有明海・八代海の環境再生が、まだまだ思うように進展していない実情に対して、本会は、まずは熊本県沿岸域を対象に、関係する様々な人・機関が集い“熊本県沿岸域の環境と防災の調和した沿岸地域づくり”を目標に設置したものです。
- 「熊本宣言文」と「熊本の海の再生に向けた行動を」の二つの提言文を本フォーラムの指針とし、沿岸海域に関わる全ての関係者が集い「海域環境の保全と改善」「水産資源の回復と漁業振興」「環境と防災の調和」の3つを基本とし「沿岸地域の活性化」の実現に向け、各テーマに関わる具体的な計画と実施を行うプロジェクトチーム(PT)を設置し活動を推進しています。



設立総会・特別講演



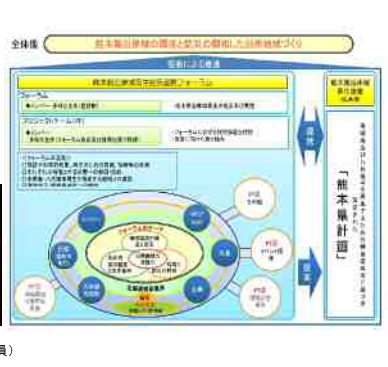
滝川 企画運営委員長  
(熊本大学名誉教授)

崎元 議長  
(熊本保健科学大学学長)



末生新 顧問  
(放送大学学長)

古川恵太 顧問  
(笹川平和財団部長・上席研究員)



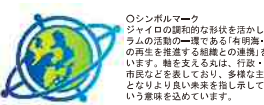
#### ●PT活動の紹介

- 閉鎖性が高い八代海の北側に位置する湾奥部は、海域環境の悪化が特に顕著な場所です。そこで、「八代海湾環境改善保全シナリオづくりPT」を設置し、再生の第一歩として活動しています。



地元自治体へ現状の報告とヒアリングを実施

- 熊本県沿岸域の情報を幅広く知って頂きたいため、「活動PR戦略PT」を設置して、HP更新・イベント等への参加活動を行っています。



熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムホームページ  
<http://www.kumamoto-forum.com/>



**◆熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム企画運営委員会**  
熊本大学、熊本高等専門学校、崇城大学、東海大学、熊本県、八代市、荒尾市、熊本県漁業協同組合連合会、NPO法人みらい有明・不知火、やつしろ里海ネット、熊本県測量設計コンサルタンツ協会、熊本県港湾建設協会、熊本県港湾建設協会、国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所、環境省九州地方環境事務所

**◆熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム企画運営委員会オプザーバー**  
農林水産省水産庁九州漁業調整事務所、農林水産省九州農政局、国土交通省九州地方整備局八代川国道事務所